



法人内の全職員のうち、約3分の1を占める看護部です。看護師・准看護師のほか、介護士と呼ばれる看護補助者、事務クークが皆さまの診察や入院生活のお手伝いをしています。

日本は2004年をピークに人口減少社会を迎え、急速な少子高齢化の進行により、社会保障制度における給付や負担のバランスが崩れ、国民の皆さまの生活に大きな影響を及ぼしています。今後も超高齢化社会の到来に対応した社会保障制度改革が必要ですが、医療機関は医療保険や医療サービスにおける国の施策の意図を理解した上で、自施設の役割や方針を決定していく必要があると思います。浜松北病院の役割としては、前号で院長が明示した通り、皆さまに安心して地域でお過ごしいただくための医療・介護サービスを提供できるよう努力することだと考えております。

以下は一貫して明示している「看護部の理念」です。

1. 患者さまとご家族の立場に立って考え、その人にとっての最良の看護を提供します
2. 全ての人々に対して「思いやり」と「尊敬の心」をもって接します

これを踏まえて令和4年度の看護部目標を以下のよう設定いたしました。

1. 患者・家族の意思決定を捉え、療養中や退院後の生活を考慮した支援をする
2. すべての人に思いやりを持って接し、人間らしさを尊重したケアを提供する
3. 患者のニーズを捉え根拠あるケアに繋げるため専門職としての自己研鑽を図る
4. 地域における組織の役割を個々が認識し、健全な経営への参画をする

看護部の理念や目標に沿った人材育成をするために、研修やOJTを通して自己研鑽に励み、専門職業人としての成長を図ることを目標としています。また新卒者の教育では、少人数制により、個々の特性に応じたきめ細やかなシステムを構築しています。

また特に高齢の患者さまに対し、常に思いやりと尊敬の気持ち、温かな配慮をもって対応するという基本的な姿勢を今後も大切にしていきたいと思っております。

看護部長 石郷岡

4階病棟の病床数が再編されました

地域包括ケアシステムへの参画を一層強化するため2022年2月より、以下のとおり変更しております。

| | | | |
|----------|-----|---|-----|
| 一般病床 | 29床 | → | 19床 |
| 地域包括ケア病床 | 25床 | → | 35床 |

新年度より一部の外来担当医が変わります

| | | | |
|--------|----------|---------------|-------|
| 外・消化器科 | 火 廣津 周 | → | 牧野 光将 |
| | 水 高橋 悟 | → | 伊藤 達弘 |
| | 木 柴崎 泰 | → | 鈴木 雄飛 |
| | 金 町田 浩道 | → | 交代制 |
| 整形外科 | 月 梅原 拓馬 | 医師が加わります | |
| | 木 榊間・一ノ瀬 | → 榊間 | |
| 皮膚科 | 月 森下 ナオミ | → | 畑 明人 |
| 泌尿器科 | 火 麦谷 荘一 | 11:30 ~ 15:00 | |



〒431-3113
 静岡県 浜松市 東区 大瀬町1568
 TEL (053)-435-1111
 FAX (053)-433-2700
 Webページはこちら(QRコード) >>



翔 き

は ば た

2022
春号
No. 65



きしゃぼっぽ保育園 ひなまつりの様子です。飾りも綺麗だけどもお菓子がうれしい子供たち



医療法人社団 盛翔会
浜松北病院

基本理念

思いやりを基本とした
愛情ある医療と福祉を実現する



地域包括ケア病床ってどんな病床？

当院には、けがや急病に対する治療を行う一般病棟（急性期）といわれる病棟と、その他に地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟、医療療養病棟があります。

| | |
|--------------------|-----|
| 第一病棟 急性期一般病棟（3F） | 53床 |
| 第二病棟 急性期一般病棟（4F） | 19床 |
| 地域包括ケア病床（4F） | 35床 |
| 回復期リハビリテーション病棟（5F） | 32床 |
| 西病棟（医療療養型病棟） | 60床 |

いくつもの種類の病床があるのは、患者さんの病態にあわせて適切な医療を提供するためです。今回は地域包括ケア病床についてお話ししたいと思います。

—— 地域包括ケア病床とは ——

一般病棟（急性期）での病気やけがの治療を経過し病状が安定した患者さんに対して「在宅復帰や居宅系施設（介護施設）入所に向けて医療支援を行う」ための病棟です。

超高齢化社会・多死社会・人口減少が進む我が国は、現在医療介護の大きな転換期にあり、政府は地域包括ケアシステムの構築と地域医療構想に踏み切りました。地域医療構想とは「将来人口推計をもとに病床数を減らし、病床の機能分化と連携を進め、効率的な医療提供体制を実現する取組み」としています。

浜松北病院は、地域包括ケアシステムの一端を担う病院として、医療と介護とのコーディネートを得意とする特徴を生かし、

- ① 高度急性期病院からの患者様の転院
- ② 老人施設で病状の悪化などにより施設介護継続が困難となった患者様の入院

- ③ 受け入れ患者様のリハビリとADL（日常生活動作）・嚥下機能評価に基づいた介護方針の調整

などを積極的に行っていきます。

そういった医療支援を行うために適した病床が、地域包括ケア病床です。

例えば……

- ① 高度急性期病院での治療後、自宅退院となったが、体力低下等で自宅での日常生活に不自由がある場合
- ② けが等で受診し、検査の結果、入院は必要なしと診断されたが、痛みが強く自宅での生活が困難な場合
- ③ 在宅療養中に主な介護者であるご家族などが、ご病気やけがで一時的に介護が困難となった場合
- ④ 在宅療養が困難となり、施設入所が必要となったが、施設入所まで待機期間が生じてしまった場合
- ⑤ レスパイト入院を希望する場合

※ レスパイト入院

在宅介護をされている方の肉体的・精神的な疲れが限界を超えてしまう前に、患者様を一時的に受け入れて、介護者に息抜きしてもらおう入院。

……など、お困りの時には地域包括ケア病床への入院をご相談いただければと思います。

当院では、2018年4月に地域包括ケア病床25床を開設し、本年2月には31床に増床しました。これからも安心して地域で過ごしていただくための医療・介護サービスを提供できるよう努力していきます。

今後とも浜松北病院をよろしくお願いします。

小松 裕明 副院長

脳神経外科
医療福祉支援センター長

【外来診療】 月・木・金・土



『もらい湯』

雪を抱いていた頃は、あんなにはつきりと近くに見えていた赤石の山々も、春霞で見え辛くなりました。枯れ木に見えた枝もあちこちで芽吹いています。仕事帰り、中学の卒業式帰りと思われる親子がニコニコしながら携帯ショップから出てきたのを目にしました。手には携帯電話と思われる紙袋。卒業生の携帯デビューでしょうか。すごい時代になりましたね。

私の子供の頃は、固定電話ですら、一軒に一台は無い時代でした。小学校で配られる名簿の連絡欄に【呼 ○○】と書かれ、その後に電話番号が書かれた友達が沢山いたものです。名簿の私の連絡先にも【呼】の文字。【呼】の後には大家さんの苗字がありました。私に連絡が入る場合は、先ず大家さんの家に電話が入り『電話だよ〜』と私の家に大家さんが呼びに来てくれる。そんな風に、電話貸すのも借りるのも当たり前の時代でした。ジブリのアニメ「となりのトトロ」でも電話を貸し借りするシーンがありましたね。

ある日、そんな昔話を平成生まれの職員らとしていましたが、若い方が一番驚かれたのが「もらい湯」の話でした。

当時、お風呂が無い家も多くありました。そんな家の人は、銭湯に行くか、近所の家でお風呂を借りるかしていました。お風呂を借りるという行為を「もらい湯」と言います。『お風呂頂きます』とお風呂を借りて近所の上りこみ、風呂から上がれば『お風呂ご馳走様でした』とお礼を言って帰る。貸す方も嫌な顔など見せたりせず何事もなかったようにしていました。衛生的にどうなの？と言われると返答に困りますが、貸した後、湯をこぼして沸かし直す様な事はしていなかったと思います。皆が同じ湯に入るのです。

昭和30年～40年生まれが集まると『昔は良かったね』と思い出話。不便ではありましたが、どこか心が温かい時代でした。

あの頃の様に、自然に優しく振る舞える様に生きたいな…。昔話からそんな思いが巡りました。

管理栄養士 青山